の松はき　伊かゞ崎河内なればいかがちにあたるなみのしづくを春　礒崎礒さきを漕でめぐれば近江ぢや　礒そのみなとにたづれさはぎ鳴

伊良虞崎志摩國志麻郡、ちどり、かもめ、時鳥、玉　礒等崎神樂にあり、みさゝ、赤勘、たゞぬる、いしまの崎雲御説、出崎

夕暮に船子のこゑも物あはれ也　箱崎筑前、此箱崎は、昔戒定惠の三學のはこを、彼松原にもうづみ給りしかば、箱崎と云也、筑紫博多、つゞきて、遙にもうろ

かこしの海にむかひて、社檀は西にむかひせのびとしつなすられば、ふるいしくの世に　林崎伊勢　はゝこの崎

三河、或伊勢と云、松、八雲御説、　星崎尾張ざり火のほしのみしらぬやおもふ心を　ほのみの崎八雲御説　敏馬崎千鳥の國、たづ、

たほ、月、淡路に同名有、富島崎と書り、又あはぢをよめる歌、しまづ　雄島崎きの夕霞まやをしまがたさ

ひと、しまがさきを、こぎゆけばやまとこひしく鶴さはにしなく、

くるなは蜑のた　岡崎山城、秋萩を心に懸て　輪田御崎つの國、月、都鳥、車舟、夕づくひわだのみさきをこぐ舟のいか

めしぐほりやうみしまらとかけ　霞崎八雲御説、常州、いそ　火、鹿島崎常陸、さらにしぬありのふれ、松、月、戀、うら人も夜

きつゝほきかぜし　唐崎近江、大宮人のふれまちかれつ、みそぎ、月、子日、あられ、氷、はまの眞砂、松、一本の松、神のうけ

みふれをひきかけしさゝ波、跡たれそぎ、神のみゆき、なれ、みの花、おろすなみは、神のうけ

ひもくとしるし、仍ながらるなみの五の色は緣なる松にぞのこるゑがにのはふらさき、長等の玉も、金御崎ん、しくせ

也、よるをそへてもよめり、又同名石見にあり、それにのかふらかみる、

のすゝめ、神、岩れ、うき枕、聞あかすかれのみ、雲州、ことしるぬしの神つり　神崎攝州、かみさ

さのき、ちめはやぶるかれのともつゞけたり、みほの崎雲州、こけ、る所、日本紀、八雲御説、

よもりみゆかず波たちぬいづこ、多枯崎鳥ふつ中きたこめのさはきたこ戀めやも、藤、松、たか姫崎同上神さぶ

こぎいめぐりわみれ共あかすかに　たぶしの崎伊勢けふ　もかたつはなのたぶもしのさらきに　橘小島崎山城　楯崎攝州、髓

ひ、月出崎近江也、月はでるがさきとくもりなつきりふれ　つこの崎武州、八雲御説、　子日崎たんごの崎日　はるかなる子にすむあまは海子

松よをすのらん引　難波崎攝州、引をのぼしてあるや難波の船　武庫崎同右、月、やど、なくて　倚島崎同右、神の住吉のあらは人

き給ひつけたまひぬ島の涙風にあはず、　野島崎淡路、又同名多し、淡路には、玉もかはる、をしとほめを

まき礒のさきにあはらき　過て夏草の野じまの崎に、庵すわれは、あづまぢの

てじまがさきの濱風にわりはもゆひしす妹がかほのみおもかげにみゆ、又近江にも有、それは、も有、それは土

野じまがさきの濱風にわりはもゆひしす妹がかほのみおもかげにみゆ、又近江にも有、それは、も有、それは土

かなみしかくれる野島が夜半かな、庵さぬれて、千鳥、夏草、　乎敷崎ふつ中あしかもさきはぎさゞれよひなみ　大崎佐

神の　小　おぐろ崎奥州、みこをつくし、ぬまのれぬなは、なみしたき、おぐろさき　莖崎攝州、松、又玖岐とかけるもあ

寶、月　みつのじまの人ならば都のつとにいざといはまくしを

り、　岫崎是同事が、松、　雲津崎伊勢、しまや月の御舟はよだきてふ　欵冬崎口なしみやらの崎きつく鳥ぜんもと

す、　けづがさきの松のむらだちて